

営農管理システムによる営農活動の見える化と情報共有のススメ（営農管理システム導入・活用講座より）

令和7年1月8日（水）、石巻合同庁舎を会場に、「営農管理システム導入・活用講座」を開催しました。

今回は、この講座の内容を中心に、主に土地利用型農業向けの営農管理システムの導入・活用に向けたポイントを紹介いたします。

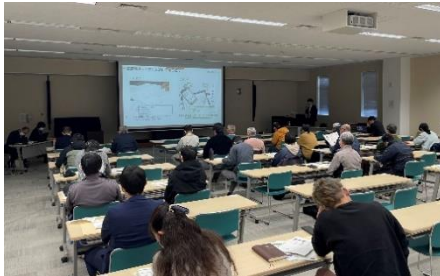


写真 講座の様子

○ 営農管理システムの主な機能

営農管理システムとは、パソコンやスマートフォン、タブレット等を使って、営農活動を記録・管理するシステムです。ほ場や施設の情報、作付計画や作業日誌、コスト・収支管理など営農活動を見える化する多様な機能を持っています。

各メーカーから様々なシステムが提供・販売されていますが、土地利用型農業向けの営農管理システムの主要な機能は次の3つになります。

ほ場管理 / 記録管理 / 情報共有

ほ場管理は、所有ほ場の位置や面積などを地図上で管理でき、ほ場の間違いや作業進捗などを視覚的に把握できます。土地利用型農業では、多くのほ場を管理するため、必須の機能になります。

記録管理は、作業日誌や使用した農薬・資材などを記録しておき、簡単に集計や振り返りができます。労務管理やコスト計算など、営農の見える化に繋がる機能です。

情報共有では、従業員の間で作付計画や作業日誌を簡単に共有できます。また、作業の進捗をリアルタイムで共有でき、作業漏れの防止など効率の良い作業が可能になります。

営農管理システムでは、次のようなことが可能になります。

- ・経営（営農）の見える化
- ・営農データの管理・保存・分析・改善
- ・従業員への作業指示
- ・ほ場間違いの防止
- ・後継者への事業継承

営農管理システムを効果的に活用するには、日々のデータ入力も大切ですが、最も重要なのは、**振り返ってデータを確認すること**にあります。むしろ、振り返る予定のないデータは、入力の優先度が低くなり、「何を改善したいか」「どの課題を解決するか」を明確にすることが、効果的かつ省力的にシステムを活用するポイントになります。

○ 各社の営農管理システムの特徴

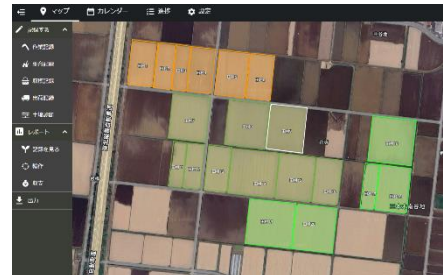
土地利用型農業向けの営農管理システムの中から、利用者が多く、機能や価格面でおすすめしたい3つを紹介します。主な機能は前述のとおりなので、それぞれの特徴を抜粋して紹介します。

① アグリノート（ウォーターセル㈱）

多種多様なデータを登録でき、土地利用型だけでなく、施設園芸でも活用できます。スマートフォンのGPS機能で、作業軌跡を記録でき、作業日誌の下書きまで行ってくれます。

人件費や資材価格、販売単価を登録すると、部門や品種ごとのコスト・収支計算が可能です。作業時間などの部門管理も簡単になります。

ほ場登録の代行サービスもあり、登録の手に悩む方にもおすすめです。



画像1 アグリノートの管理画面

② KSAS（クボタ㈱）

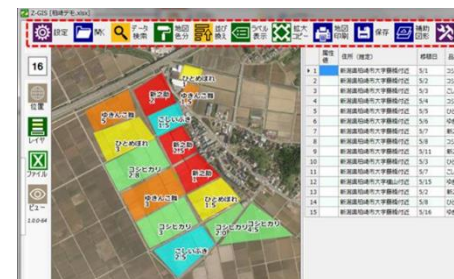
KSASの強みは、農機連携です。KSAS対応農機と連携すると、自動で作業記録が保存されます。また、農機が取得したデータを確認でき、簡単に他の農機にデータを移行できます。KSAS対応の穀粒乾燥機や非対応農機でも位置情報を取得できる端末「シンプルコネクト」などもあり、農機連携を使いこなしたい方におすすめのシステムです。



画像2 KSASの管理画面

③ Z-GIS（全国農業協同組合連合会）

Z-GISは、ほ場地図とエクセルをリンクさせて管理する、ほ場管理システムです。農地ナビの情報から一括でほ場登録ができます。ザルピオとの連携や、1kmメッシュ気象データの確認などの機能もあり、利用料も安いのが特徴です。エクセルでも細かいデータ管理をしたい方にもおすすめのシステムです。



画像3 Z-GISの管理画面

営農管理システムは、年間数万円のコストがかかりますが、今後の営農活動には必須のツールになると考えています。

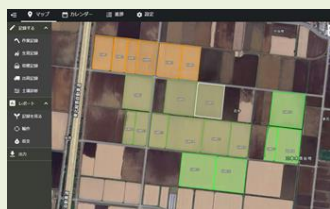
まずは無料版を使ってみるなど、各自の経営や目的にあったシステムを見つけみてください。

スマート農業の活用に向けた県からのお知らせ

① アグリテックの導入・活用をお考えの方へ 「みやぎアグリテックアドバイザー派遣」のご案内

- アグリテックの新規導入や、効果的な活用・改善に関する課題解決のために、専門家や先進農業者などの助言・指導を行うアドバイザーを派遣します。
- アドバイザー派遣にかかる費用は無料です(県が負担します)。
- 土地利用型農業の他、施設・露地園芸や畜産分野の課題でも派遣できます。
- アグリテックの活用についてお悩みの方や、今後の導入を検討している方は、是非ご利用ください。

【指導・助言の対象となるアグリテックの例】



営農管理システムの活用



スマート農機の有効活用

<利用方法>

- お近くの農業改良普及センターにお問い合わせください。
- アドバイザーの派遣には、日程調整に時間を要します。利用の際は、お早めにご相談ください。

③ 「宮城県RTKシステム」の利用申し込み ～複数台利用者が増えてきています～

【申込期限】

毎月20日を締切とし、順次ID・パスワードを発行します。

【利用対象者】

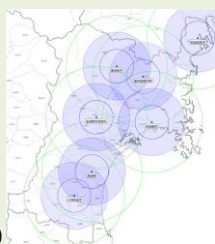
農業者、農業法人、農業関連企業等

【基地局設置場所】

県内7か所(県ウェブサイト参照)

【配信方式】

Ntrip方式(ネット回線からデータ配信)



【負担金】

ID発行数	年間負担金(税込み)	利用期間は、4月1日から翌年3月31日までになります。(年度単位)
1台目のみ	20,000円/台	
2台目以降	10,000円/台	

【申込方法】

県ウェブサイトから要領や様式をご確認いただき、下記の申込先へ提出してください。

※県ウェブサイト: 宮城県RTKシステムの利用について
(<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/rtk-system.html>)

【申込先】(公社)みやぎ農業振興公社(郵送又は提出)
〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
(県仙台合同庁舎9F)
TEL:022-342-8380(RTK受付)

② 「みやぎスマート農業(水田作)活用の手引き Ver.2.0」をご利用ください

宮城県では、令和3年3月に、アグリテックの普及拡大に向けた、土地利用型農業へのスマート農業技術の活用のための手引きを作成しました。

昨年3月には、3年ぶりに手引きを改訂しましたので、ご利用ください。

【主な改訂内容】

- 技術の内容を最新の情報へ更新
- 個別技術のメリットや課題に、実際に利用している生産者の意見を反映
- 活用事例(調査・研究結果)を追加

みやぎスマート農業
(水田作)
活用の手引き
Ver. 2.0



令和6年3月
宮城県農業振興課

最新のスマ農の手引きはこちらからダウンロードできます。

※県ウェブサイト: みやぎのスマート農業

(<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/smart-agri.html>)

【発行】宮城県農政部農業振興課普及支援班

E-mail: smart_miyagi@pref.miyagi.lg.jp



④ 「みやぎスマート農業推進ネットワーク」の会員募集

宮城県では、スマート農業の普及拡大に向けて、農業者と産学官による情報交換と協働の場として、「みやぎスマート農業推進ネットワーク」を設置しています。

会員には、農業者や農機メーカー、ICT企業、関係団体、自治体など、約240者が登録しています(R6.7月現在)

【活動内容】

- 会員同士の情報交換・情報共有
- セミナーや現地実演会の開催
- 情報収集

【対象者】

スマート農業に関心がある農業者、農業機械・ICT企業、農業関係団体、その他ネットワークの趣旨に賛同する方

【会費】 無料

【加入申込】

県ウェブサイトから申込書をダウンロードいただき、下記の申込先へ提出してください。

※県ウェブサイト: みやぎスマート農業推進ネットワーク

(<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/smart.html>)

【申込先】宮城県農政部農業振興課普及支援班
〒980-8570 仙台市青葉区本町3-8-1
TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839
E-mail: smart_miyagi@pref.miyagi.lg.jp